

# 意見書

令和2年1月

男鹿市教育委員会  
教育長 栗森 貢 様

男鹿市小・中学校の在り方  
を考える協議会  
会 長 浅井 繁 樹

## 1 はじめに

本協議会は、男鹿市教育委員会教育長から、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていく学校の特質を踏まえつつ、本市小・中学校の現状や実態を理解した上で、5年後、10年後の児童生徒が学ぶ本市小・中学校のあるべき姿について研究協議し、提言を策定するよう依頼された。

本市においては、平成19年度以降、前年度に設置された「男鹿市小中学校の在り方を考える協議会」による提言内容を踏まえ、学校小規模化等が進む中、学校統合を含めた教育環境等の整備が図られてきた経緯がある。

本協議会では、前回協議会提言の継承を確認した上で、今後も少子化が進み、学校が急激に小規模化する中、令和時代における本市小・中学校の在るべき姿について、全小・中学校で推進しているコミュニティ・スクールによる地域と一体となった学校の在り方等も含めて、多面的多角的に検討してきた。

なお、学校統合を進める際の基準としては、地域住民からの要望、複式学級の解消、通学方法や所要時間、施設状況を柱に協議してきた。

## 2 提言

(1) 地域の核としての学校の存在は大きいものがある。今後も地域と学校が協力して子どもの成長を支えるコミュニティ・スクールの機能を生かし、活力ある学校づくり、地域と共にある学校づくりを進めていく必要がある。

(2) 本市小・中学校において、今後も進行する児童生徒数の減少に伴い、学校統合は避けられない状況にある。統合にあたっては、地域住民からの要望を考慮して進めるべきであるが、男鹿市教育委員会は、地域からの要望を待つだけでなく、積極的かつ計画的に地域住民との情報交換や説明等に努めていただきたい。

(3) 将来の学校数は、小学校は2校（現在6校）、中学校は1校（現在4校）とするのが望ましいが、(2)で述べたように、統合にあたっては、地域住民からの要望を十分考慮して進めるべきである。

なお、統合が実施された場合、通学所要時間は、1時間を超えることがないように配慮するとともに、新校舎の建築等を含め、さらなる教育環境の充実に努めるべきである。

統合についての詳細は次のとおりである。

- ① 前期〔令和２年度～令和６年度まで〕
  - a 小学校は、北陽に複式学級があることから、船川第一との統合を検討し、計５校とする。
  - b 中学校は、男鹿北が生徒数３０人を割ることが続くことを考慮し、男鹿南との統合を検討し、計３校とする。
- ② 後期〔令和７年度～令和１１年度まで〕
  - c 小学校は、複式学級が出現する可能性が高い美里、払戸が船越と、新校舎を建築して統合を検討し、計３校とする。
  - d 中学校は、潟西が生徒数３０人近くになることを考慮し、男鹿東との統合を検討し、計２校とする。
- ③ 将来〔令和１２年度以降〕
  - e 小学校は、将来的には脇本第一と、船越・払戸・美里統合校との統合を検討し、計２校とする。
  - f 中学校は、男鹿南・男鹿北統合校と男鹿東・潟西統合校の統合について、新校舎の建築も併せて検討し、１校とする。

### 3 おわりに

本協議会は、学識経験者・P T A関係者・地域代表・一般市民がそれぞれの立場から、男鹿市の子どもたちにとって、望ましい教育環境とはどのようなものか等、本市小・中学校の在り方について検討を重ねてきた。

児童生徒数の著しい減少による学校の小規模化が進むなどの市内小・中学校の現状を認識することから始め、学校の適正規模や教育効果、地域と学校の関連性等について、男鹿の将来を担う子どもたちが、夢をもって楽しい学校生活を送れることを願いながら出された意見と活発な協議を経て、ここに意見書としてまとめることができた。

本市においては、これまでの学校統廃合により、地域の活力の減退や児童生徒数の減少に拍車をかけることがないよう配慮されてきたものの、地域の核となる存在であった学校の閉校が、その地域の活力の低下につながってきた感は否めない。

現在、全小・中学校で、平成２８年度より導入しているコミュニティ・スクールを学校経営の基盤に据え、多様な特色ある取組が実践され、小規模化する中での活力ある学校づくり、地域とともにある学校づくりにつながるなどの成果が得られている。今後も、その充実・発展を望むとともに、加えて、小規模校のメリットを最大限生かしていく取組や情報通信技術を活用した学習を積極的に展開していくなど、これからの時代にあった教育を推進していく必要がある。

最後に、学校の統合を含めた施策を進めるにあたって、行政は、保護者・地域・学校の理解や協力を得ながら、一体となって取り組み、子どもたちにとってより良い教育環境が整備され、男鹿市の教育が更に発展することを期待するものである。